



第1回文化講演会

講演内容

小説という芸術形態は19世紀フランスで発展したとされ、日本の小説界も、明治以降、フランスでの流行をそのまま取り入れてきた。

ギュスターヴ・フローベールは現代小説の祖と呼ばれる小説家であり、その重要性は計り知れない。

今回は、彼の生い立ちから小説の書き方、他の小説家(ヴィクトール・ユゴーなど)との違いまでを紹介する。

Gustave Flaubert

ギュスターヴ・フローベール(1821年12月12日-1880年5月8日)はフランスの小説家。ルーアンの外科医の息子として生まれる。当初は法律を学ぶが、癲癇の発作を起こしたことを機に文学に専念。1857年に4年半の執筆を経て『ボヴァリー夫人』を発表。ロマンティックな想念に囚われた医師の若妻が、姦通の果てに現実に敗れて破滅に至る様を怜悯な文章で描き、文学上の写実主義を確立した。他の作品に『感情教育』『サランボー』『ブヴァールとペキユシェ』など。

フローベールは作品の中から作者の主観を排除し、客観的で精密な文体を通じて作中の人物に自己を同化させることを信条とした。風紀紊乱の罪が問われた『ボヴァリー夫人』裁判中に語ったといわれる「ボヴァリー夫人は私だ」という言葉は、彼の文学的信念を端的に表すものとしてよく知られている。

Littérature française du 19^{ème} siècle

19世紀のフランス文学について

ギュスターヴ フローベールを中心に

2011年7月30日[土]

開場 13:15 開演 13:30

第1部 13:30-15:00 ◆ 講演会

講演者: 三原智子氏

ルーアン大学文学部博士課程修了、神戸大学文学部博士課程単位取得退学、現在、群馬大学教育学部准教授、群馬日仏協会常務理事

第2部 15:10-15:45 ◆ 交流タイム

前橋市中央公民館 東和銀行本店隣

前橋プラザ元気21内 5F・57学習室

〒371-8601 前橋市大手町2-12-1 Tel:027-224-1111(代表) Fax:027-224-3003

※駐車場は前橋プラザ元気21北側旧ウォーク館立体駐車場をご使用ください。駐車代金は無料になります。

参加費500円(飲み物・焼き菓子付)

参加申し込み締切日:7月23日(土) 定員42名:定員になり次第締め切ります

参加申し込み、お問い合わせ共に 学術部会副会長:瀬下かな子まで

メール: kanako2315@hotmail.com 携帯:090-2177-9300

企画担当:学術部会

企画担当責任者:群馬日仏協会副会長 佐藤公彦 ・ 学術部会副会長:瀬下かな子